

●土壌・地下水 (1) (1-D-14-1~1-D-15-1)

本セッションでは、土壌浄化や地下水汚染に関して多様な内容の 5 件の発表がなされた。

1-D-14-1 は、微生物による土壌浄化における微生物層の透水性予測に関する発表であった。予測に関しては一定のレベルに達しているが、まだ改善すべき点が多く残されており、今後の研究に期待したい。

1-D-14-2 は、植物の根から分泌される酵素によるエストロゲンの分解率を同位体希釈法により分析するとき、サロゲートも同時に分解される問題を解決しようという研究である。分析を専門とする筆者から見ると、同位体希釈法にこだわらない手法もあるように思われた。

1-D-14-3 は、POPs に指定された PFCs の東京都の地下水汚染に関する発表であった。PFCs は全ての地下水から検出され、一部は下水放流水より高濃度であった。今後は、そのリスク評価を期待したい。

1-D-14-4 は、エストロゲンと根粒菌の共存の植物生長への影響に関する報告である。本研究は、時間を要し、また影響要因自体が変化するため、明確な結果を得るのが難しいようである。今後の頑張りに期待したい。

1-D-15-1 は、ネパールの地下水の大腸菌汚染に関する研究である。ネパールを含む途上国においてまず取り組むべき課題の 1 つは衛生状態の改善であり、本研究の意義は大きい。今後の進展に期待したい。

(北九州市立大・国際環境工 門上 希和夫)